

特定非営利活動法人 JHP・学校をつくる会（認定NPO）

平成20（2008）年度 事業報告書

平成21（2009）年度 事業計画書



設立15年を機に、事業評価を実施。（2008年10月、シアヌークビル市コンペンチャス小学校でのインタビュー）

目次

平成20年度事業の主な実績・・・・・・・・・・	2	会計に関する報告	
各種事業の報告		平成20年度収支計算書・・・・・・・・・・	22
学校建設事業・・・・・・・・・・	3	平成20年度貸借対照表・・・・・・・・・・	23
教育支援事業・・・・・・・・・・	5	平成20年度財産目録・・・・・・・・・・	24
ボランティア派遣事業・・・・・・・・・・	9	監査報告書・・・・・・・・・・	25
啓蒙活動（広報啓発）事業・・・・・・・・・・	11	平成21年度の事業方針・・・・・・・・・・	26
運営基盤拡充・・・・・・・・・・	13	平成21年度事業計画書・・・・・・・・・・	27
各種事業の詳細資料・・・・・・・・・・	17	平成21年度収支予算書・・・・・・・・・・	32



特定非営利活動法人
JHP・学校をつくる会
JAPAN TEAM OF YOUNG HUMAN POWER

平成 20 (2008) 年度事業の主な実績

学校建設

校舎建設棟数は 219 棟 (ラオス 1 棟含む。)

カンボジア 8 地域に、校舎 19 棟 82 教室、トイレ 14 棟 66 室、教員養成学校の宿舍 1 棟 12 室を建設。既建設校の排水路整備、校舎塗装実施。上記校舎に机・椅子 2,009 セット支援。井戸 4 基支援。平成 20 年度支援対象校 (20 校) の受益者は、生徒 12,899 人、教員 443 人。

音楽支援

当会トレーニングを受けた教員が、140 校 (小学校 98 校・中高 17 校・教員養成学校 25 校) で音楽授業を実施中。

当会として初めて、合唱指導の専門家を派遣し、各地で指導を実施した。(2 回派遣) 第 5 回音楽コンテスト参加校は 97 校 (過去最高)。6 県で 16 回の小学校部門地区予選を実施。マーチングバンド、合唱指導の成果披露の場として、「第 1 回 JHP 青少年によるコンサート」を実施した。

美術支援

美術プロジェクトに参加校は 80 校。(小学校 73 校、小学校教員養成学校 7 校)

美術専門家 (日本画家) 2 名を 2 回派遣し、各地での指導、絵画展作品審査を行った。第 7 回絵画展を開催し、カンボジア 2,737 点、日本 511 点が集まった。同時に両国の文化交流にも繋げた。来場者は 14,029 人だった。

衛生教育

衛生教本を 19 校 950 冊配布した。学校建設の最終協議や美術ワークショップにて、当会スタッフが衛生教本を用いて、教員、地域住民に対して衛生指導を実施した。

CCH (幸せの子ども家) 支援

CCH 支援は 7 年目に入り、子どもの数は、2009 年 3 月末現在、海外に留学中の生徒 4 人を含め、58 人まで増えた。2 名の女子が、将来の夢の実現に向けて、関西にて 3 ヶ月間美容師の事前学習を経験した。

支援物資

年間荷受件数は 269 件。鍵盤ハーモニカ 1,482 台、リコーダー 501 本、オルガン 42 台、太鼓 117 台、ピアノ 2 台などが集まった。プロジェクトで寄贈した主な楽器は、鍵盤ハーモニカ 987 台、リコーダー (ソプラノ 253 本、アルト 880 本)、カスタネット 270 個、ハーモニカ 200 本など。学校贈呈式の際に現地で購入し寄贈したノートは 29,673 冊、ボールペンは 16,833 本。

ボランティア派遣

カンボジア 3 月隊を復活させ、カレッジ研修を含めて年 3 隊、61 名を派遣した。これまでのカンボジア派遣者数は 885 名。海外ボランティア派遣総数は 1,005 名となった。

国際ボランティア・カレッジ

3 期目にして過去最高となる 28 名の受講生を迎えた。カンボジア研修も過去最高の 17 名が参加した。

啓発活動

1 年で 3 つのチャリティーイベントを実施。寄付と収益の合計は 8,327,323 円となった。200 棟目の校舎贈呈式を記念するツアーに 40 人が参加した。プノンペン事務所は、1 年間に 48 回、456 名 (過去最高) の訪問者を受け入れた。年賀寄附金による報告会を 9 回実施し、全体で 699 人が参加した。2008 年 6 月にホームページを全面リニューアルした。

運営基盤拡充

淑徳与野高校、九州女子高校などから大口のマイル寄付を受けたことにより、活動隊派遣時にマイルを有効活用することができた。当会として初となる事業評価を実施した。代表の小山内美江子が「第 20 回毎日国際交流賞」を受賞した。東京事務所の運営を充実させることを目的に、新事務所移転計画に着手した。(2009 年 6 月より移転)

1. 学校建設事業

(1) 小・中学校建設

今年度は8地域に19棟82教室の校舎、14棟66室のトイレ(シャワー室6室含む)、1棟12室の教員養成学校の宿舎を建設した。カンボジア各地での校舎建設棟数は219棟となった。(ラオス1棟を含む。)さらに今年度はクラチエ県、コッコン県での調査も行った。次年度には両県で学校建設を行う予定である。

今年度は45校の建設要望が寄せられた。JHPスタッフが直接現地を訪問、調査し、

教室が足りず2部制以上で授業を行っている学校

老朽化により授業の実施が天候等で左右される学校

などいくつかのチェック項目を勘案したうえ内部で協議し、優先順位の高い学校から建設を行った。

また、ここ数年、建設対象が小学校、中学校から教員養成学校(師範学校)にまで広がっているが、本年度は教員養成学校の寄宿舎を建設した。(以下項目(2)を参照)また、JHP初の事例として、カンボジア日本友好サクラ学園(シアヌークビル県)では雨季における校庭の排水環境の改善を目指し、排水管工事を行った。

(2) 教員養成学校建設

コンボンスプー県の小学教師養成学校から学生寮建設の要請があった。これを受け、2008年1月に調査を行った結果、既存の学生寮には5m x 8.5mの7室に10名ずつ同居しており、室内の半分はベッドが隙間なく並べられている状態であることがわかった。また、調査実施の時点では、女生徒14名が一室に同居していた。全生徒約180名の内80%が入寮を希望しており、一部屋に大人数を詰め込んでも大半を受け入れることができている状態であった。また、シャワー室の不備など、女生徒への配慮がなされておらず、入寮を敬遠する者が多く、事実、女生徒の20%しか入寮していなかった。よって、多くの学生がやむなく親戚や知人の家、寺などに下宿、間借りをしていた。

当会は国際ボランティア貯金から助成金を受け、2008年4月より2階建て1棟12室、トイレ6室、シャワー室6室の建設を着工し、同年12月に贈呈式を行った。この学生寮が完成したことにより、学生の生活環境は大きく改善され、収容可能人数も増加した。学校の敷地内にあるため、安全面の問題も緩和され、安心して生活でき、また、通学にかかる費用がいらなくなるなど、学生、学校から好評であった。

<平成20(2008)年度学校建設事業の実績>

支援学校名	生徒数	教員数	支援内容					井戸
			校舎		トイレ		机椅子	
			棟	室	棟	室		
スクン小学校	1,187	39	1	5	1	4	125	
チュランクポー小学校職員室棟	350	5	1	2	-	-	9	
メーサン小学校	625	14	1	4	-	-	100	
クボーヴェン中学校	348	14	1	5	1	5	125	1
モハサン中学校	570	25	1	5	1	5	125	
トゥールブルム小学校	733	10	1	5	1	4	125	1
ソンボックオー小学校	415	10	1	5	1	4	125	
教員養成学校学生寮(2階建て)	177	27	1	12*	1	12*		ベッド、椅子、机、ロッカー
カンボジア日本友好サクラ学園	2,128	82	-	-	1	5		排水溝、校舎塗装
アンチュムブノンチョチョー小学校	300	5	1	5	1	3	125	
チサラランセイ小学校	496	24	1	5			125	
バンティエダエツ中学校	878	31	1	5	1	4	125	1
アンロンクライ小学校	409	7	1	4	1	4	100	
プラウボンバイック小学校	281	5	1	5	1	4	125	
スワイチュルム小学校	926	29	1	4	-	-	100	
ロテアン中学校	632	30	1	4	1	4	100	
スワイロミエツ中学校	339	18	2	7	1	4	175	1
ピームロー小学校	710	22	1	4	-	-	100	
ブラサット小学校	302	8	1	3	1	4	75	
クデイトンテム中学校	1,093	38	1	5	-	-	125	
合計	12,899	443	20	94	14	66	2,009	4

*教員養成学校の学生寮は教室数に、同校シャワー室はトイレ室数に含めている。



(写真上)
完成した2階建て
学生寮

(写真下)
寮を利用する
女子学生

(3) 専門家による現地視察

2008年7月9日から17日まで、国際ボランティア貯金による助成事業として、一級建築士の青野達司氏を派遣し、学校建設に関する監督、指導を行った。現場監督を行った学校は約20校となった。

青野氏の指導や詳細報告書を元に、建設業務の改善を図ることができた。

ここでは、コンポンスプー県教員養成学校学生寮についての青野氏の視察コメントを紹介したい。

[配筋について]

日本においては1階の柱と2階の床版を同時にコンクリート打設を行うが、カンボジアにおいてはまず2階床梁下までの柱の打設を行いその後2階床版と梁の打設を行う。柱の打設時には梁の型枠はまだ施工されていないので梁筋は柱に定着を取ることが出来ずに直交する梁に水平に定着させている。決して好ましいことではない。本現場の場合梁の上端筋と下端筋は上記のように水平に定着されているが上端の2段筋と下端の2段筋は柱の中で切断され定着がとられていない。直交する梁に定着が取れるように補強筋を入れるようにと指示をしたが鉄筋が込み合いコンクリートが入っていかないような状況になることが予想される。平屋の教室棟の柱と同じ200mm角の柱では8本の梁筋を納めるのは困難と思える。

[型枠について]

型枠には塗装合板が使われている。日本の塗装合板のように品質管理のされたものではなくどうやら現場製作のもののように塗料もウレタン樹脂ではなく調合ペイントのようである。使用の理由もコンクリートの肌を平滑にするためではなく合板の耐水性を高めて寿命を長くするためとのことである。すべてがこの塗装合板であればよいのだが普通合板に廃油（機械油）を塗ったものも使っている。剥離材の意味で塗っているのではな



プノンペン事務所でレクチャーを行う青野氏

く塗装合板と同じ理由の様である。打ち放し面ではなくモルタルで仕上げるためせき板取り外し後の醜い状態が長く続かないのは幸いである。

(4) 既建設校の視察（フォローアップ）

建設会社による保証は3年間で、これに伴って6ヶ月、1年、2年、3年目と建設後のチェックのため現地調査を行っている。

また、チェック時に発見した問題点は、建設会社と話し合い、建設会社、JHP、地域等の分担で補修を行っている。

本年度は53校の視察を行った。プルサット県のタッサ小学校（2006年5月に1棟4教室、トイレ、井戸を寄贈）を視察した際は、校舎内・校庭はきれいに清掃されているが、ポンプ式の井戸が壊れており、水をくみ上げることができなかった。学校長と改めてチェックしたところ、ポンプ内の水をくみ上げるための部品が壊れていることが原因であることがわかった。校長は自身で部品を購入し、修理可能と説明。後日、使用可能かチェックに行った際には修理は完了しており、子どもたちも使っていた。実際には、学校側の自主性だけでは、積極的な補修、修理を行うことは難しいのが現状である。JHPが定期的にチェックに行き、状況を把握し、学校側や業者と現状を確認しあうように努めることで、支援した設備はより良好な状態で維持できると考える。

(5) 建設後の状況（モニタリング）

～ブラウボンバイク小学校建設後の状況から～ 調査時の状況

バタンバン県モンルッセイ郡にある当校は既存校舎が1999年築の木造校舎1棟3教室、トイレ2室であった。運営クラスは5クラス。教室不足のため、6年生は当校より2キロ離れた小学校に通学していた。校舎の老朽化がひどいため、建て替えを希望。新校舎を建設して6年生を含めた全学年の運営を目指している。既存トイレも老朽化が激しく、使用不可となっていた。

建設後の状況

学校からの依頼を受け、当会が1棟5教室の校舎とトイレ1棟5室を建設。2009年1月に完成した。また、2009年3月には、カンボジア活動隊とカレッジ現地研修メンバーが合同で3基のブランコを建設した。

現地の声

建設後のフォローアップの一環として、ブラウボン

バイク小学校にて、学校長並びに児童から次の通り感想を聞いた。

[ソム・ファン校長 51歳 男性]

新校舎ができてとても幸せです。以前の校舎はとても暑く、児童も教員も大変だったが、現在の新校舎での授業はとても快適です。また、以前は教室数が少なく、6年生は別の学校へ通っていたが、現在は全学年が同じ校舎で勉強できるようになって本当に良かった。新校舎の建設後は児童の出席率も良くなったことで、校長として本当に嬉しい。また、日本からのボランティアがブランコを作ってくれた。子ども達も本当に喜んでいる。



[パウ・ソクン 13歳6年生 女性]

新校舎で勉強できて本当に嬉しいです。涼しいし、明るいし、勉強がしやすくなったと思います。昨年は5年生でしたが、もしこの学校がなかったら、6年生になったら別の小学校に行かないといけませんでした。でも、新しい校舎ができたので、1年生の弟や4年生の妹と同じ校舎で勉強できるのでとても嬉しい。今は算数が好きで、勉強が楽しい。将来は歌手になりたいな。



2. 教育支援事業

(1) 音楽教育プロジェクト

2008(平成20)年度は、コンボンチュナン県(コンポントライ郡・トゥックポー郡) タケオ県(トラムコック郡他) シアヌークビル市(メタピアップ郡)の小学校から28名の教員が「音楽教員育成のための2年間トレーニング」を修了し卒業した。また、音楽授業の成果発表の場として「JHP音楽コンテスト」を開催しており、今年度は5回目となった。

本年度より、全国の教員養成学校の音楽教員を育成するトレーニングを開始し、計33名が受講した。

これらの普及の成果として、2009年3月末現在140校(小学校98校・中高17校・教員養成学校25校)で、当会のトレーニングを受けた教員が、音楽授業を行っている。

なお、本プロジェクトは国際ボランティア貯金配分金の助成を受けて実施された。

2年間トレーニング参加校調査

2008年度は、新たな音楽トレーニング参加校としてプレイベン県に焦点を当てて調査を行った。その結果、各地のコア校(地域の核となる学校)を中心として、20校より33名(郡教育局3名を含む)の参加者が決定した。

また、上級トレーニング参加校を対象に行った追跡調査では、トレーニング継続の意思の確認と、参加者の理解度チェックおよびフォローを行った上で、楽器を配布した。配布物は、1校あたり鍵盤ハーモニカ50台・タンバリン1個・木琴1台・鈴1個・カスタネット10個だった。

音楽ワークショップ

当会の2年間トレーニングでは、1年目(初級)16日間、2年目(上級)14日間、計30日間のトレーニングを実施している。本年度は、初級トレーニングにはプレイベン県(コンボンリエウ郡・バーブノン郡・ピームロー郡他)の小・中学校、郡教育局から33名が参加した。また、上級トレーニングには、コンボンチュナン県(コンポントライ郡・トゥックポー郡) タケオ県、シアヌークビル市18校より28名となった。

また、2006年度から継続して、プノンペン市教員養成学校(MTTC)にて音楽指導員育成ワークショップを実施してきた。参加者は、当会トレーニングを修了した者で、将来的には音楽教員を育成する指導員を目指す意欲のある教員18名。この教員に対する本トレーニングは本年度をもって終了し、来年度は他の教員を対象に実施する予定。

講師はヒム・サヴィー氏(JHP契約講師・王立芸術大学所属)が中心となって務めた。

教員養成学校教員対象音楽トレーニング

本年度より、全国の教員養成学校(幼稚園・小学校・中学校)の音楽教員を対象とした音楽トレーニングを開始し、33名の教員養成学校教員が参加した。講師はラム・ダラボン氏、テップ・クンティアレット氏(王立芸術大学所属)が中心となって務めた。

合唱指導

当会合唱アドバイザーの山田三千夫氏をカンボジアに2度派遣し、合唱普及活動を行った。第1回は2008年10月の既卒者対象音楽フォローアップ内での合唱指導、第2回は2008年12月に小学校での指導となった。

第5回音楽コンテスト

音楽トレーニング参加者および卒業生が音楽授業を行っている学校を対象に、2004年度より年1回の行事として「音楽コンテスト」を開催している。2008年度は、6県で16回の小学校部門地区予選を行い、参加校は97校（過去最高）となった。音楽教育の楽しさや意義を子どもたちのみならず、開催地域の人々にも知ってもらいたい機会として位置づけている。

また、決勝は国立教育大学ホールにて、3月20日午前小学校部門、同日午後中学校部門を開催した。小学校部門ではコンブスプー県アキャモヘイセイ小学校、中学校部門ではプレイベン県カンボジア日本友好学園中学校が優勝した。

【参加者感想】

- ・音楽コンテストに参加できてとてもうれしいです。2部合唱がとても気に入っています。（コッコン県スララオ小学校音楽教員）
- ・JHPがどのように音楽コンテストの準備をしているか、よく分かりました。とてもよい経験で、生徒たちもたくましくなりました。（コンボンチャム県チュレイタソー小学校音楽教員）
- ・優勝できなかったけれど、いい経験になりました。（タケオ県アンプロサー小学校生徒）
- ・参加できてとてもうれしいです。たくさん練習をしたので、学校の成績が悪くなるかもしれないと心配です。（コンブスプー県チャントゥナール中学校生徒）

第1回JHP青少年によるコンサート

2008年12月21日、ブノンペン大学第2キャンパス内ホールにて、「第1回JHP青少年によるコンサート」を開催。マーチングバンド3校と6地域10校の小中学生による合唱団、アンコールユースオーケストラによる演奏を披露した。

マーチングバンドプログラム

ブノンペン市コラップ 小学校とサクラクバルチュロイ小学校、ワットブノン中学校の3校で、マーチングバンドの練習を行った。コラップ 小学校とサクラクバルチュロイ小学校は週1回木曜日（2008年12月より土曜日に変更）、ワットブノン中学校は週1回木曜日（2008年4月～9月）、週2回木・金曜日（2008年10月～2009年3月）。コラップ 小学校・サクラクバルチュロイ小学校は鼓笛隊として、鍵盤ハーモニカと打楽器を中心に練習を行い、ワットブノン中学校はトランペット鼓隊を目指し練習し、スポーツ大会の開会式や音楽祭など各種イベントにて活躍している。

マーチングバンド指導

2008年5月26日～6月13日、日本から尾田一夫氏をカンボジアに派遣し、マーチングバンドトレーニングを行った。各マーチングバンドの生徒への指導や、マーチングバンド指導員へのトレーニングを依頼した。

(2)美術教育プロジェクト

画材配布、既卒者フォローアップ

2008年10月、6地域で既卒者対象絵画フォローアップ（各地域2日間）を実施。第7回絵画展へ出展説明や追加トレーニング、本年度分の画材贈呈、衛生教育ワークショップ等を実施した。

尚、2009年3月現在、80校（小学校73校、小学校教員養成学校7校）が本プロジェクトに参加している。

教員対象美術ワークショップ

今年度は8月11日から15日までの5日間に初級ワークショップ、8月25日から29日までの5日間に中級ワークショップをブノンペン市教員養成学校にて実施した。参加者は初級19名、中級20名。講師はパウ・ラスメイ氏（王立芸術大学卒）が務めた。

例年5日間の初級ワークショップを終了しても継続的に学びたいという要望があることから、今年度は新たに中級レベルを設け、水彩画やデッサン、折り紙を中心に指導した。また4日目にはカンボジア8月隊のメンバーとアンコールワットを好きな素材で作る交流会を行った。

小学校教員養成学校(TTC)学生対象美術ワークショップ

2008年5月～7月と10月～11月にかけて、2市4県（ブノンペン市、シアヌークビル市、タケオ県、コンブスプー県、カンダール県、コンボンチャム県）の教員養成学校で学生対象ワークショップを開催した。昨年度までは6地域の教員養成学校で同内容のワークショップを実施していたが、各校の絵画教員のレベルに応じて指導内容を検討した。10月から11月のワークショップでは、当会の絵画展に応募する作品のための指導を行った。いずれのワークショップも、教員養成学校で十分な絵画教育ができていないという現状に対して、受講生が教員になってから役に立つと思われる内容を提供できた。

第7回絵画展

地方を巡回する絵画展を毎年行っており、今年度は7回目の開催。開催地は上述の2市4県。

教育関係者、地域住民に美術教育をより身近に感じてもらい、その普及につなげ、絵画展を通して美術教育のみならず、子どもたちの学校教育への参加意欲を高めること、想像力、創造力を伸ばすことを目的に開催している。この絵画展は、毎年の恒例行事として各県の教育局や教員養成学校と協力しながら行っており、各地で好評を得ている。

本年度は日本画家の中村豪志氏、中村ひろみ氏にカンボジアを訪問していただき、6地域で審査委員会を実施し、教育局や教員養成学校教員と話し合いながら、優秀作品を選ぶプロセスを学習することができた。

尚、カンボジアと日本の子どもたちの優秀作品を掲載した画集を600部作成し、参加校に配布した。

【来場者感想】

・JHPは優秀な作品を数多く教育省とともに選んでおり、素晴らしいと思います。美術は子どもの想像力を養うために必要で、自然を愛し、色とともに生活することができるようになります。JHPには今後とも美術プロジェクトを継続してほしいです。(カンダール県教育局・男性)

・自分の友達の絵や、それと同じくらいきれいな他の生徒の絵を見ることができてよかったです。たくさんのいい絵を見て、私も絵が好きになりました。それと、絵についていろいろ説明してくれた、教員養成学校のお兄さんお姉さんに感謝します。(プノンペン市ヌワット小学校6年生・女性)

・いろいろな絵を見たり、お絵かきをしたりした時間はとても楽しかったです。(タケオ県オンタソーム小学校5年生・男性)

・都会の生徒だけではなく、私のような田舎の生徒も、この絵画展を見ることができたらいいと思います。JHPが絵画展を開いてくれてありがとうございます。(コンポンスプー県ウドン中学校3年生・男性)

・このような絵画展は自分の学校で今まで見たことがありませんでした。もっと長く絵画展を開いてほしいです。(コンポンスプー県アキャモヘイセイ小学校5年生・男性)

クラスター(学校群)ミーティング内絵画ワークショップ

本年度はコンポンスプー県ウドン郡プレイバンクラスターで、クラスター内で開催される情報共有のためのミーティング内で行われる絵画ワークショップの企画・運営をサポートした。2008年11月から2009年3月までの間、1ヶ月に1回のワークショップが開催された。

日本の絵画展への出展

美術事業の成果披露の一つとして、プノンペン市ダムコー小学校より6点の作品を第12回浜田こどもアンデパンダン展に応募した。その他、MOA美術館栃木内児童作品展へはコンポンスプー県アキャモヘイセイ小学校、第39回世界児童画展へはタケオ県リエイボー小学校、トロペントロベーク小学校、第15回カナガワビエンナーレ国際児童画展にはコンポンスプー県ラスメイサマキ小学校の作品を応募した。

(3)衛生教育プロジェクト

今年度も建設後のトイレ、井戸の利用状況を確認し、随時指導を行った。同時に、学校の清掃や校内美化について実践的なアドバイスを行った。

衛生教育普及のための教本配布

JHPは当会作成の衛生教本を新校舎完成時の贈呈品のひとつとして各学校に50冊ずつ配布してきた。本年度は学校、地域へのインパクトを強めるため、配布方法を変更した。学校建設前の最終協議時に各校に25冊配布、その際に当会スタッフが衛生教本を用いて教員、地域住民に衛生教育普及の理解と協力を促し、さらに贈呈式時に25冊を配布することとした。これは、最初に配布し、解説、使い方を説明することで、JHPスタッフが学校建設中に各校を訪問した際に、より効果的に衛生教育の必要性を訴えることができるようにするためであり、また、地域住民を含めて協力体制をつくることが目的である。本年度は19校へ計950冊配布した。

水質検査

2008年度は4基の井戸について、砒素、大腸菌の検査を行った。いずれも砒素は検出されなかったが、大腸菌の陽性反応がでた井戸が1基あり、井戸水を直接



学校建設の最終協議で衛生指導を実施

飲まないよう、教員、児童に指導した。今後は過去に掘削した井戸の水質検査も行うべく準備を進める。

衛生教育ワークショップ

2008年に実施した既卒者対象絵画ワークショップ内で、絵画プロジェクト参加校の校長と絵画教員を対象に、衛生教育ワークショップを実施した。指導内容は、JHP衛生教本の解説、手洗い指導と手のデッサン、掃除当番表作成等、衛生教育と美術教育を融合させたワークショップを企画した。

(4)援助物資募集及び海外輸送

物資募集

東京事務所では、年間を通じて海外向けの支援物資の募集を行い、主にボランティアが仕分け作業、楽器清掃、梱包作業を行った。年間の荷受件数は269件(前年度189件)。主に、鍵盤ハーモニカ1482台、リコーダー501本、オルガン42台、太鼓117台、ピアノ2台などの支援物資が集まった。

海上輸送(日本 カンボジア)

2009年2月に、40フィートコンテナ1本分の支援物資(楽器、文具、机・椅子)をカンボジアに輸送した。また、日本国内の物資輸送は共同印刷(株)、共同物流(株)に協力をいただいた。

うち、オルガン2台については、支援者の意向によりシムリアップで活動する他団体に提供した。

物資	配布数	物資	配布数
鍵盤ハーモニカ	987台	手帳	65冊
カスタネット	270個	色鉛筆	75セット
鈴	27個	絵筆	49本
タンバリン	27個	美術全集	1セット
木琴	27台	カレンダー	1,620冊
ソプラノリコーダー	253本	絵の具	74セット
アルトリコーダー	880本	パレット	19個
ハーモニカ	200本	クレヨン	144セット
小太鼓	27個	スケッチブック	69冊
エレクトーン	2台	ボール	94個
マラカス	12個	壁掛け時計	94台
ギター	1台	世界地図	94枚
アコーディオン	6台	ゴミ箱	94個
クラリネット	1本	黒板消し	5個
アルトサククス	1台	ボールペン	16,833本
トランペット	2台	ノート	29,673冊
タオル	160枚	鉛筆削り	18個
靴	120足	CDラジカセ	5台
ベスト	96着	チョーク	300本
ズボン	67本	ファイル	590冊
シャツ	632枚	鉛筆	18,385本
ポーチ	950個	マイク	2台
ジャケット	145着	マイクスタンド	2台
Tシャツ	40枚	スピーカー	1台
スカーフ	500枚	レターファイル	60冊
かばん類	375個	マイクスタンド	2台
扇子	270枚	歯ブラシ	360本

主な持込物資(日本 カンボジア)

カンボジア8月隊、3月隊、カレッジ研修派遣時に、楽器、文具等の支援物資を持ち込み、各種プロジェクトに活用した。

支援物資の配布状況

今年度、学校建設及び教育支援事業で配布した物資は左下表の通り。

協働事業の実施

当会は、江東区と海外リサイクル支援協会との協働で、リサイクル品(楽器、机・椅子等)の募集、整備、輸送を行っている。今年度は鍵盤ハーモニカをはじめとした楽器の収集、輸送、贈呈を行った。

また、静岡の新富士ロータリークラブと協力して、チューバーアンパウ高校(プノンペン市)に中古自転車217台を寄贈した。

(5)研修生招聘

2008年度は、当会が「熊本県海外技術研修員制度」に推薦したコンボンスプー県アンロントン小学校教員のキン・ラー氏(30歳・男性)が招聘され、2008年8月から2009年1月までの6ヶ月間、熊本県芦北町で研修を受けた。

2009年度分として、コンボンチャム県チュレイタソー小学校校長のナム・ネット氏(33歳・男性)の推薦書及び申請書を熊本県国際課に提出した。

(6)幸せの子どもの家(CCH)運営サポート

CCHの運営状況

2002年11月に開所したCCHは2006年6月に2棟目(CCHと呼ぶ)が近隣に完成し、男子の居住スペースと職業訓練スペースが確保された。更に2009年1月よりCCHの隣にCCHを卒業し、自立のための職業経験を積んでいる若者の宿舍、ユースハウスの建設が始まった。現在ユースハウスは借り上げた部屋を使っている。

入所児童数は、ゴミ山で生活していた子どもたち16人からスタートし、その後徐々に人数を増やし、2009年3月末現在、海外留学中の4人を含め58人に増えた。

子どもたちは、所長のメチ・ソカ氏をはじめ、多くのスタッフやボランティアの愛情に包まれ、それぞれの将来の夢に向かって日々勉強を続けている。2008年度の子どもの生活は次の通り。

【勉強について】

2006年8月より、ナルン(男子)が奨学金でシンガポールの高校(UWC)に留学したが、その後シンガポールのUWCに男子1人、女子1人が、またカナダのUWCに男子1人が留学した。また女子4名、男子1人が奨学金によりプノンペンにあるインターナショナルスクールに通学している。また、英語で授業が行われるパニャ

サストラ大学の付属中学校へ中学生になった14人が通学している。孤児たちの自立のためには質の高い教育、特に英語の習得が必須条件であるというソカ氏の考えによる。公立中学校には5人が通学中。公立小学校には36人が通学している。

[職業訓練について]

- ・2名の女子が、将来の夢の実現に向けて、関西にて3ヶ月間美容師の事前学習を経験した。
- ・5人の男子が職業訓練で有名なドンボスコ校で電子工学、機械工学、ホテルマネージメントの研修を2009年8月より2年間受けることが決まった。
- ・CCHで女子には裁縫と料理、男子には建設工のトレーニングが週末行われている。またコンピュータートレーニングには男子14人、女子1人が参加している。
- ・7人がCCHを巣立ち、住み込みや、ユースハウスに住みながらコックや裁縫の仕事についている。

[トピック：ロードشوチーム]

ドラッグ、児童人身売買、HIV/AIDS等カンボジアの子どもたちをとりまく課題について自分たちで寸劇を制作し、ごみ山や貧しい地域、他の孤児院等で上演し、自分で身を守るためのキャンペーン活動を行っている。

財源について

資金面では、サポーター等の寄付に加え、「連合愛のカンパ」の助成金を受けた。また、子ども達の将来の進学に備えて過去の寄付の中から基金を開設した。JHPは2009年度からの6年間は、年間約150万円の支援を継続する方針である。

CCHカレンダー作成

今年度はCCHの支援及び広報を目的としたカレンダーを1,500部作成し、東京事務所、プノンペン事務所で1,110部（2007年度は974部）を販売した。

残りはCCHサポーターへの特典の他、支援者拡大の為にの広報等に活用した。



CCHで読み聞かせをするお姉さん役のチャリア

CCH 便り発行

CCH サポーター、支援者への活動報告として、年間2回「CCH 便り」(第10、11号)を発行、サポーター向けに子ども達の成長を記す「CCH プロフィール集」を作成した。

3. ボランティア派遣

カンボジア隊応募数

派遣年月	応募数
2006年度 8月	50 (36)
2006年度 3月	14 (8)
小計	64 (44)
2007年度 8月	44 (33)
2007年度 3月	12013 (8)
小計	57 (41)
2008年度 8月	31 (17)
2008年度 3月	23 (17)
小計	54 (34)
合計 (2006年度より)	175 (119)

()は女性応募者数
は国際ボランティア・カレッジの
カンボジア研修参加者数

当会の理念でもある「日本の若い世代への地球市民教育」の実践として、海外ボランティア派遣事業を継続して実施した。今年度はカンボジアに3回派遣した。

(1) カンボジア派遣

本年度より3月隊が復活し、8月、3月にカンボジア活動隊、3月に国際ボランティア・カレッジのカンボジア研修として派遣した。

8月隊派遣(2008年8月3日~8月31日)

引率者を含め、派遣者26名。遊具建設地はバタンバン県のトゥールブルム小学校、プレイベン県のメーサン小学校、コンボンチャム県のスクン小学校でブランコ建設を行った。その他、音楽、美術ワークショップの視察やCCH(幸せの子ども家)での交流会、他NGO見学としてCMACの地雷除去現場などを訪問した。

ボランティア派遣者数の実績

年度	カンボジア		ユーゴ		アフリカ		その他	
	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数
1993	30	1	-	-	-	-	-	-
94	71	3	25	4	-	-	-	-
95	37	2	34	4	-	-	-	-
96	65	3	5	1	3	1	-	-
97	62	4	6	2	1	1	-	-
98	53	3	10	3	2	1	-	-
99	50	2	7	1	2	1	-	-
2000	50	2	4	1	2	1	4	1
01	62	2	2	1	-	-	1	1
02	59	2	-	-	2	1	-	-
03	61	2	4	1	2	1	-	-
04	55	2	-	-	2	1	85	4
05	70	2	-	-	3	1	3	1
06	51	2	-	-	2	1	2	1
07	48	2	-	-	2	1	-	-
08	61	3	-	-	-	-	-	-
合計	885	37	97	18	23	11	95	8

3月隊派遣(2009年3月1日~3月22日)

引率者を含め、派遣者18名。遊具建設地はバットンバン県のプラウボンパイック小学校、カンダール県のアンチュムプノンチョジョー小学校でブランコ建設を行った。その他、音楽コンテスト地方予選の視察やCCH(幸せの子どもの家)での交流会、他NGO見学としてCMACの地雷除去現場、カンボジアトラスト、AARなどを訪問した。

国際ボランティア・カレッジカンボジア研修(2009年2月22日~3月16日)

派遣者17名(うち4名が短期日程参加)。JHPプロジェクト参加、NGO団体等活動見学、アンコール遺跡群視察の実施。また、遊具建設校はバットンバン県プラウボンパイック小学校にて3月隊と合同で行なわれた。

(2)小山内美江子 国際ボランティア・カレッジ [実施概況]

第3期(2008年度)小山内美江子 国際ボランティア・カレッジは、9月13日(土)から3月28日(土)までの6ヶ月間実施した。開講式では、小山内代表・塾長から「今期は石の上にも3年の言葉のように事業の見直しや基盤を整備しましたので、エントリーが増えたことを基に、皆様の積極的な活動を期待します。」と呼びかけがあった。

履修生は「講義で学び」「現地で研修」の二本柱で、ボランティア活動、アジアの歴史、カンボジアの最新事情、アンコール史跡視察、孤児院等訪問、学校贈呈式参加、交流セレモニーでの発表、現地での講義など、手にふれ、肌で感じ、考え、交流・連帯感の醸成など多くの新鮮で鮮明な体験を得たと思われる。履修生の感想では「初体験の内容が多く、感動や理解を深める貴重な日々でした。年齢は問わず、国際協力について同じ目的で学ぶカレッジ生は深い絆で結ばれた思いがします。」等々が寄せられた。心身ともにひと廻り大きくなって修了式に臨んだ生徒には、塾長より全員に修了証書・聴講証書が手渡された。今後、これら体験、学びが「行動へ」生かされることが望まれる。



カレッジの講義を行う小山内代表(塾長)

開講式:2008年9月13日(土)
全科目履修生:28名(男性5名、女性23名)

・前半の講義(座学)

9月13日(土)~2月18日(水)

毎週 水曜日 18:30~20:00

土曜日 13:15~16:30

・後半の現地研修(実学)

長期:2月22日(日)~3月16日(月)23日間

短期:3月6日(金)~3月16日(月)11日間

修了式:2009年3月28日(土)

[次年度に向けて]

全体を通じ第3期は、1・2期を改善、新規講師や講義内容の重複調整、同一講師の講義間隔を狭め、体系的、系統・実践的に工夫した。実学は日程に余裕を持たせるよう訪問先の精選、日程の短縮や短期参加者はボランティア活動の取り入れ、3月隊との初の合同活動は、協働、情報交換、連帯感の向上で効果的なのでこれを継続する。

運営基盤については全科目履修生・聴講生の定員確保を図り、広報重点化、特に港区助成金や講義会場の立地条件等から区内履修生増に努める。

講義会場がJHP事務所内に設定のため、カレッジ生のボランティア活動や諸活動の場の提供により啓発活動の促進を図る。

男子学生等の参加呼びかけ、広報対策や新規助成金等の拡充を図る。

【国際ボランティア・カレッジ実績一覧表】

項目	第1期	第2期	第3期
全科目履修生	20名 男8名 女12名	19名 男7名 女12名	28名 男5名 女23名
出席率(平均)	62%	66%	68%
聴講生述べ人数 (1講座平均)	454人 (5.5人)	377人 (4.5人)	145人 (2名)
講師	34名	37名	42名
講義	83講義	83講義	72講義
現地研修 参加者数	12名 長期8名 短期4名	13名 長期10名 短期3名	17名 長期13名 短期4名



カンボジア研修で遺跡のレクチャーをする今川副塾長

4. 啓発活動

(1) チャリティーイベント

2008 年度は恒例のチャリティーイベントのほかに初めての試みとして、若い邦楽演奏者の協力による企画も含め 3 つのチャリティーイベントを開催。寄付と収益を合わせて 8,327,323 円となった。

天満敦子さんヴァイオリンコンサート

6 月 22 日、浜離宮朝日ホールを会場として、第 4 回目を数える「天満敦子チャリティーコンサート（無伴奏）」を開催。“恒例行事”として毎年楽しみに参加くださる方に加え、新聞や音楽誌での紹介記事の好影響で初参加の方が目立った。二部構成でアンコール 2 曲を含む全 15 曲を演奏。第一部の終わりに天満敦子さんが述べたご挨拶では、昨年度のチャリティー公演のご寄付で作成したカンボジアで初の生徒用音楽教科書のことに触れ、更なるご支援を熱心に呼びかけてくれたことから、休憩時や終演後には活動紹介展示物や現地で使用されている各教科書をご覧になり、活動隊として現地を訪れた経験をもつボランティアの方々に積極的に質問するお客様の姿が多く確認された。来場者数は 537 名、お手伝いくださったボランティアの方々は 27 名（社会人×14 名、学生×13 名）。教育支援の中でも特に音楽教育プロジェクトに役立てる。

チャリティーオークションパーティー2008

2006 年に続き、神楽坂のアグネスホテル アンド アパートメント東京を会場として 12 月 2 日に開催したこの集いは、100 名という限られたお客様にご着席プフエでミニコンサートやお喋りを楽しんでいただき、各界著名人の皆様のご提供くださったお品からお気に召したものを買い求めいただくことで、教育を受ける権利を奪われているカンボジアの子どもたちの教育支援に役立たせていただくために企画。展示やお値付け



2 年振りのチャリティーオークションパーティー。オークションでは、俳優のえなりかずき様と小山内代表の MC が復活。

などは今回も TBS プロデューサーの石井ふく子先生にお力添えいただき、俳優のえなりかずき様と小山内代表によるオークション MC も復活。岸田敏志様のミニコンサート、更には、内海桂子師匠が急きょ駆けつけてくださるなどチャリティーオークションコーナーは大いに盛り上がり、前回は上回る収益となった。各界著名人（団体含）43 名様より約 350 点をご寄贈いただいた。

JHP チャリティーイベント 2009

2009 年 2 月 15 日、東京・港区 TBS 赤坂サカス内にてきた赤坂 BLITZ で「赤坂 BLITZ でハジケて翔ぼう！」を開催。これは JHP の活動に賛同くださった若いアーティストたちのお力をお借りしてカンボジアの子どもたちの教育支援に役立てることを目的として企画。今回は邦楽（和太鼓と津軽三味線）を堪能いただいた。和太鼓の JAA 太鼓アカデミー「太鼓衆猿」は総勢 30 名が山梨から駆けつけたが、これは 1993 年、小山内代表とアフリカの地でソマリア難民救援活動を共にした梅澤氏が理事長を務める日本航空学園とのご縁によるものであった。津軽三味線の鈴木利枝さんは大分立命館アジア太平洋大学に通う大学 4 年生。10 才の時に津軽三味線の虜になり、生まれ育った名古屋から青森の中学校へ越境入学して鍛錬を積んだ経緯をもつ。メインアクトとしてオープニングとトリを務めたのは、弱冠 18 才の浅野祥さん。津軽三味線全国大会で 14 才から史上最年少で三連覇を果たした天才奏者と称され、津軽三味線の可能性を広げる存在として海外からも注目を集めている存在。司会進行は小山内代表の脚本による『3 年 B 組パート』生徒役で代表とは 30 年来の親交をもち、遠慮ないやり取りが会場を沸かせた。エンディングでは急きょ『桜中学 3 年 B 組』の面々が駆けつけてくれ、カンボジアの学校へ植樹の寄付を渡す場面もあった。来場者数は 460 名。ボランティアとしてお手伝いくださった方々は 37 名（社会人×12 名、学生×25 名）。尚、本チャリティーイベントは、外務省「日メコン交流年 2009」事業に認定された。

(2) スタディーツアー

今年度は、8 月 23～28 日まで、200 棟目の校舎贈呈式の参加をメイン行事としたツアーを実施した。参加者は、200 棟募金参加者の中から 40 人となり、当会ツアーとしては過去最高の人数となった。

(3) ボランティアコーディネーター

ブノンペン事務所は、1 年間に 48 回、456 名の訪問者を受け入れ、事業視察・見学や贈呈式参加、ボラン

ティア作業などを希望する個人、団体、企業等に対してきめ細やかに対応した。

(4)機関紙発行 (JHP ニュース)

本年度は5月(42号)、8月(43号)、11月(44号)、3月(45号)の計4回発行した。会員の方々と事務局とのつながりをもたせ、見やすく・分りやすい会報づくりを目指した。今年度も企業広告枠を設けて印刷費を削減した。

(5)記録集発行

年度内に予定していた発行が間に合わず、2009年5月中旬の発行となった。タイトルは『笑顔いっぱい15年』。巻頭特集として、『JHP 国際協力15年のあゆみ』、『事業評価レポート』、『あの学校は今・・・?』を掲載。今回は、巻頭特集を充実させた結果、200ページ以上となった。発行部数は4,200部、広告は3社となった。

(6)ホームページ

2008年6月にホームページをリニューアル。サイトマップを整理し、情報を得やすいページづくりを目指した。リニューアル後は問合せが増加した。2006年度から継続している東京・プノンペン両事務所スタッフによる持ち回り日記、「JHP 日記」は週1回更新し、今年度は35回配信した。また、カレッジ隊、活動隊派遣時にはカンボジア現地研修レポートを随時更新した。

また、当会が承認している外部HPからのリンク数は10件となっている。

(7)広報啓発活動

活動報告会

今年度は5月10日に、アフリカ隊および第2期カレッジ隊の報告と2008年8月隊派遣説明会を麻布区民センター区民ホールで開催。また、10月12日には2008年8月隊活動報告会と2009年3月隊派遣説明会を芝浦港南区民センター区民ホールで開催した。

日本郵政公社年賀寄附金による報告会事業

本事業は、当会の海外ボランティア活動報告会を生きた教材と捉え、日本各地での国際協力への理解を深めるのと同時に、海外ボランティア活動や青少年の健全な育成に寄与する目的で実施した。

事業期間は、2008年5月から2009年3月末まで実施し、開催は、盛岡、北海道、熊本、横浜、神戸、徳島、で各1回、東京では3回(計9回)で行った。

報告は、実際にカンボジアでのボランティア活動を行った大学生を中心に、同世代はもちろんのことだが、小学生から大人まで幅広い世代から学生による

「生」の声への関心が寄せられた。

各報告会会場では、カンボジアについて初めて知る方が多く、参加者との距離を縮めるためにカンボジアに関するクイズを取り入れなどの工夫を凝らし、そのためか、質問が多く寄せられる報告会となった。

報告会へ参加した方(参加総数699名)の多くが国際協力、海外ボランティア活動への関心や理解が深められたと、実施したアンケートに感想を述べた。その中には、「国際協力や国際交流の意味について再確認する良い機会になった」、「これまで遠い存在としてしか思っていなかったカンボジアの教育問題が他人事だったが、身近な問題として考えていきたい」と報告を聞いて主体的に活動を行おうと考える参加者も現れた。

また、本事業は、報告者が報告技術を向上させることができたことも含め、学生ボランティアの育成につながったことも一つの成果であった。

オリエンテーション

原則毎月第1土曜日の午前10時からと第3金曜日の夕方17時から毎月2回、活動全般を紹介するためのオリエンテーションを実施。国内でのボランティア、活動隊への参加、カレッジ参加など参加者それぞれの要望に合わせた説明を行った。JHPの活動に興味を持った方が来訪した際にも随時対応した。

今年度は社会人女性の参加が多く、休日を利用したボランティア活動を希望する方が目立った。

今年度の参加者は25名。うち4名が入会、2名が活動隊参加、4名がボランティア活動に参加、1名がカレッジ聴講生となった。

広報活動・イベント出展等

当会の活動紹介や非営利活動推進の募金や物販などを行う各種イベント・企画に年間40回携わった。

講演活動

年間を通じて、当会役員、事務局、ボランティアがそれぞれの立場で対外的に講演、講義、報告等を行っ



横浜市立八景小学校にてカンボジアについて説明するJHPの学生ボランティア

た。年間総数は 59 回で、担当者は延べ 176 人だった。内、代表小山内の講演は 21 回だった。

各種媒体への掲載

年間を通じて、当会活動に関する新聞・雑誌記事が各種掲載された。傾向として、小山内美江子取材記事、JHP 主催イベント等が多く取り上げられた。

記事の内容は、「天満敦子チャリティーコンサート」、「第 20 回毎日国際交流賞」、「(株)山田養蜂場広告での JHP 紹介」、「馬清所長訃報」、「国際協力アート展」、「赤坂 BLITZ でハジケて翔ぼう!」、「JHP 旭川活動」など。

また、特記事項として、山田養蜂場のテレビ CM で当会活動が紹介されたこと、電通の協力で雑誌『パピルス』誌上に 2 ページのカラー広告が掲載されたことが挙げられる。

今後は、担当者ベースでプレスリリースを作成し、積極的に各種媒体に働きかけたい。

(8)募金運動

年間を通じて、使用済み牛乳パックに貼る専用の募金箱シールを配布しながら、募金を集めている。

2008 年度は 40 個を回収し、137,347 円の募金が集まった。(前年度は 11 個、46,968 円)

2001 年度の運動開始以来、累計は 864,911 円。

(9)地域ネットワーク

2002 年度より活動の全国展開を目指した「地域サポーター」制度を設けている。事務局はサポーターの活動内容について特別に要望をせず、それぞれが主体的に可能な範囲の広報活動を展開している。

特に北海道旭川市では、北海道教育大学旭川校のサークル活動として約 10 名が組織的に活動している。今年度は、年賀寄附金の助成金により、同サークルより 3 名が東京にて活動報告を行い、その実績と積極性に多くの関心が寄せられた。大学サークルにおける 1 つの模範的事例となっている。

運営基盤拡充

1. 財源確保

(1)認定 NPO 法人関連

当会は、2004 年 1 月に「認定 NPO 法人」の資格を取得したことにより、寄付された方に対して

税制上の優遇措置があたえられるようになった。以来、5 年を経過したが、認定 NPO 法人に対する理解度も少しずつは増してきてはいるものの、現実にその資格を取得している団体は、全国 38,000 以上の NPO の中でいまだに 93 団体(2009 年 4 月 1 日現在)に過ぎず、その存在が誰からも認知されているとはいいがたい状況である。

この 4 年間、当会の寄付総額は 1 億 4000 万円から 2 億円の間を推移しており、認定取得前の平均 1 億円前後に対し、40%以上の増加を見ている。しかしながら、2008 年度は、その中でも、寄付額、件数とも減少傾向を示している。したがって、寄付者への丁寧な報告を徹底し、寄付のリピート率を上げるなど対策を講じた。

当会の場合、数ある NPO 団体の中でも、収入に占める寄付の比率が取り分けて大きいいため、その額の変化によって活動の幅が大きく振られる傾向にある。したがって、今後とも、寄付だけでなく、補助金・助成金や事業収入の拡大と安定化を図ることが活動の活性化のための大きな課題であると認識している。

年度	寄付件数(件)	寄付金総額(円)
2005	1,132	180,850,407
2006	1,229	157,809,669
2007	1,896	195,367,407
2008	1,246	143,036,473

会員の推移

都道府県名	07年度	08年度	増減	都道府県名	07年度	08年度	増減
北海道	51	45	-6	京都	15	11	-4
青森	4	6	+2	大阪	25	31	+6
岩手	2	5	+3	兵庫	13	7	-6
宮城	11	11	0	奈良	6	5	-1
秋田	2	3	+1	和歌山	1	2	+1
山形	3	3	0	鳥取	0	0	0
福島	6	7	+1	島根	3	3	0
茨城	13	14	+1	岡山	11	16	+5
栃木	5	3	-2	広島	10	9	-1
群馬	11	10	-1	山口	4	5	+1
埼玉	63	59	-4	徳島	0	5	+5
千葉	73	65	-8	香川	2	2	0
東京	386	360	-26	愛媛	3	2	-1
神奈川	216	210	-6	高知	0	1	+1
山梨	8	8	0	福岡	22	20	-2
長野	6	8	+2	佐賀	1	7	+6
新潟	3	3	0	長崎	2	4	+2
富山	4	4	0	熊本	14	11	-3
石川	10	10	0	大分	5	6	+1
福井	0	2	+2	宮崎	3	3	0
岐阜	5	4	-1	鹿児島	13	11	-2
静岡	50	53	+3	沖縄	2	2	0
愛知	24	21	-3	その他	0	2	+2
三重	7	7	0	合計	1,123	1,091	-32
滋賀	5	5	0				

(2) 支援者情報

JHP・藤原紀香カンボジア子ども教育基金

2006年5月にスタートして以来、本基金としての動きは、HP発信・交流をベースとしながらも、藤原紀香さん撮影による写真展「Smile Please!」を出来る限り開催し全国の皆さんにご賛同ご協力を呼びかけ続けている。2008年度は山口県宇部市、香川県高松市、大阪府伊丹市の3ヶ所で開催。また藤原紀香さんとユミリー先生（風水建築デザイナー：直居由美里氏）のご縁から、今年度よりHP「運気の循環コーナー」をご活用くださった皆様からのご協力をご寄付いただいた。その他、学校生徒会や文化祭からのご寄付も目立った。2006年5月～2009年3月末日現在、基金HPへの総アクセス数は163,700件を超え、2008年度に寄せられたご寄付は5,105,079円となった。

URL: <http://www.norika-cambodia.com>

年度	寄付額 (収入)	支援額 (支出)	繰り越し額
06年度	1,949,618円	0円	1,949,618円
07年度	6,175,280円	6,000,000円 学校建設	2,124,898円
08年度	5,105,079円	220,000円 ブランコ2基建設	4,885,079円
現在残額			7,009,977円

(3) 会員の状況

会員数は昨年度に引き続いて漸減傾向である。ここ数年、新入会員の数は150名、退会者は180人前後とほぼ横ばいの状況で、結果的に毎年30名ぐらいつつ減少しているのが実態である。NPO団体の総数が毎年かなりの数で増加していく中で、会員を将来的に増やしていくためには、新入会員の獲得を増やすことはもちろん必要であるが、一方、既存会員の継続率を増やすための施策を考えていく必要もある。活動内容の充実は言うまでもないが、会員にとって魅力ある団体であること、そしてそのことを分かりやすく広報していくことが求められるであろう。

都道府県別に増減を分析すると、首都圏などで、減少の

会員の内訳		人数	前年比増減
継続	特別会員	28名	-7名
	個人会員	906名	-28名
新規会員		157名	+3名
合計		1,091名	-32名

傾向がある反面、東北や西日本で増加傾向が見られる。一昨年度から大阪、徳島、岩手など、地方の都市で活動報告会を実施した個所で増加していることがこの主要因ではないかと考えられ、やはり、広報活動の重要性が強く感じられる。

(4) 各種助成金申請

各種申請業務(11件)

今年度は11件申請したところ、以下の4件の配分が決定した。不採用は2件、結果待ちは5件。

名称	対象事業	配分決定額
国際交流基金	カレッジ第3期	500,000円
国際ボランティア貯金	学校建設	15,200,000円
国際ボランティア貯金	音楽支援	1,605,000円
国際協力NPO助成	音楽支援	1,000,000円
合計		18,305,000円

助成金による事業(6件)

名称	対象事業	配分決定額
港区NPO活動助成金	カレッジ第3期	500,000円
国際交流基金	カレッジ第3期	500,000円
国際ボランティア貯金	学校建設	10,950,000円
国際ボランティア貯金	音楽支援	1,792,000円
連合「愛のカンパ」	CCH運営	2,000,000円
年賀寄附金	啓発活動	2,492,000円
合計		18,234,000円

(5) 各種募金活動

200棟募金 15周年記念事業

2007年4月より、1人1万円で600人分の募金を集める活動を開始し、目標額を上回る631人分の寄付が集まった。支援先校はプノンペンより75キロ、1時間半の位置にあるコンポンチャム県のスクン小学校に決定し、2008年1月15日より校舎1棟5教室とトイレ1棟4室の建設を開始、同年5月30日に完成した。

贈呈式は8月27日、当日にあわせて実施したスタディーツアーより40名が参加し、盛大な式典となった。

(6) 各種収集による財源確保

書き損じ葉書・切手

書き損じ葉書を集めて通信費を削減する運動を継続。2008年度は90,701円分の通信費の削減に繋がった。(運動開始からの累計は1,892,270円)

また、未使用切手は、154,398円集まり、東京事務所にて活用した。(累計は301,626円分)

マイレージ

当会はノースウエスト航空の社会貢献(エアケアー

チャリティープログラム)の寄付先に選ばれている。

2008年度は、淑徳与野高校(4,236,466マイル)九州女子高校(3,499,542マイル)など、多大なマイル寄付を受けた。この為、有効利用について検討した結果、初めてカンボジア3月隊派遣に活用することができた。その他、音楽や美術事業の専門家派遣にも有効活用された。マイル口座開設以来の利用状況は以下の通り。

年度	取得総数	使用マイル	マイル残数
2007年度迄	1,533,058	1,012,500	520,558
2008年度	8,365,214	1,705,000	6,660,214
合計	9,898,272	2,717,500	7,180,772

(7)寄付サイト

当会が参入している寄付サイトと、2008年度の寄付額は以下の通り。

- 環境アーリーナ研究機構(95,646円)
- 国際協力NGOセンター(42,284円)
- ユナイテッドピープル株(8,765円)
- ヤフー株(100,449円)

2. 協力団体との提携

(1)加入団体との連携

今年度は9団体に加入し、活動展開の為の様々な情報を得ることができた。詳細は21ページの表に示した通り。

(2)災害時の募金

今年度はミャンマーサイクロン被害に対して、東京事務所内に募金箱を設置し、同国で活動するシャンティー国際ボランティア会に30,415円を寄付した。

また、第77回理事会において、災害救援基金が制定され、同時に100万円を繰り入れた。

3. 各種会議

(1)会員総会

2008年5月24日(土)に高輪区民センター集会室にて実施した。

(2)理事会

今年度は9回実施し、種々案件を審議、検討した。開催日と審議事項は表の通り。

尚、主な重要決定事項は、『「幸せの子どもの家(CCH)」支援計画』、『法人・団体からの支援受け入

れに関するガイドライン改定案』(以上第75回)、『馬清基金の制定』、『災害救援基金の制定』(以上第76回)、『「退職金規定」の制定』、『東京事務所の移転』(以上第77回)等が挙げられる。

(3)運営協議会

理事と事務局の情報共有や運営に関する討議の場として、主に水曜日午前中に計29回実施した。

(4)事務局ミーティング

常勤理事、職員、定期ボランティアの情報共有の場として、毎週金曜日の午前中に実施した。

(5)マンスリーミーティング

ボランティアによる月例ミーティングを毎月第1土曜日に実施した。イベント広報、ボランティア募集、交流会企画等を行った。今年度参加者延べ数は120人。

理事会・総会の開催について

会議名 開催日	主な審議事項
第70回理事会 2008年4月22日	1.2007年度事業報告及び収支決算 2.2008年度事業計画及び収支予算 3.2008年度総会の開催及び報告事項 4.役職員の海外出張 5.退職に伴う餞別金の支給 6.CCHの子ども研修招聘時に当会が身元保証をする件 7.当会車輛のCCHへの譲渡
会員総会 2008年5月24日	1.2007年度事業報告及び収支決算 2.平成20年度事業計画及び収支予算 3.その他
第71回理事会 2008年5月27日	1.2008年カンボジア8月隊の当会派遣者 2.事務局の組織及び運営
第72回理事会 2008年6月10日	1.馬清ブノンベン所長逝去に伴う特別弔慰金及び退職金の支給 2.当会ロゴマークの使用許可について
第73回理事会 2008年7月29日	1.カンボジア3月隊の実施について 2.ブノンベン事務所ローカルスタッフの日本研修
第74回理事会 2008年9月17日	1.企業からの支援に関するガイドライン 2.理事に対する国際ボランティア・カレッジ講師謝礼金の支払い 3.事業評価のためのカンボジア出張
第75回理事会 2008年10月29日	1.2008年度学校建設事業 2.「幸せの子どもの家(CCH)」支援計画 3.2008年度カンボジア3月隊並びに国際ボランティア・カレッジ研修への役職員の派遣 4.ブノンベン事務所ローカルスタッフの正規採用 5.法人・団体からの支援受け入れに関するガイドライン改定案
第76回理事会 2008年11月26日	1.東京事務所職員及びインターン採用 2.職員の退職に伴う餞別金の支給 3.2008年度学校建設事業
第77回理事会 2009年1月8日	1.馬清基金の制定 2.災害救援基金の制定 3.災害救援基金への拠出 4.2009年度前期学校建設事業 5.職員の採用 6.チャリティーイベントの実施
第78回理事会 2009年2月25日	1.2009年度事業計画及び予算案 2.「退職金規定」の制定 3.就業規則の一部改定 4.就業規則(カンボジア職員用)の一部改定 5.2009年度前期学校建設事業 6.東京事務所の移転 7.職員の退職に伴う餞別金の支給

4. 事業評価

当会はこれまでまとまった形で事業評価を行ったことがなかった。設立 15 年を迎えるにあたり、「成果を計り、これからの事業の方向性を確認しあい、事業の質を高めるための内部評価」を実施することになった。

2008 年 1～3 月の勉強会を経て、事前視察（2008 年 7 月 9～16 日）、評価本番（2008 年 10 月 6～15 日）と進めることができた。評価は学校建設事業を主とした。過去の資料を読み直し、事業フェーズを区分し、その中からサンプル校を 10 校選び、校長、生徒へのインタビュー、学校観察などを分担して行った。

結論として、JHP 支援校舎は有効に活用されていることが分かった。ただ、教室以外の施設（教員養成学校の多目的室、トイレ）については利用度が低い学校もあることが分かった。

その他、具体的な成果、今後の活動に向けた提言については、2008 年度活動記録集に報告書（計 47 ページ）としてまとめることができた。

5. 事務所移転

国際ボランティア・カレッジの講義会場を探していた所、東京事務所（本部）スペースを同時に確保できる場所を見つけることができた。場所は学校法人読売理工学院ビルで、JR 田町駅から徒歩 3 分の好立地にある。今年度は、学院側との各種交渉、協議を継続し、同時に移転準備を進めることができた。移転作業は 2009 年 5 月 30 日（土）に行い、6 月 1 日より新事務所にて業務を開始する。

6. 体制

(1) 役員

当会の現役員は一覧表の通り。（2009 年 3 月 31 日現在）

(2) 事務局

当会ブノンペン事務所にて約 7 年にわたり活動の中心を担ってきた所長の馬清が、2008 年 5 月 28 日急逝した。日本国際ボランティアセンター

役職名	氏名
代表理事	笹平（小山内）美江子
副代表理事	二谷英明
副代表理事	今川純子
理事	二木日出丸
理事	佐伯蘭子
理事	山岡修一
理事	佐谷隆一
理事	松本伸夫
理事	立石義明
理事	脇田知子
理事	吉岡健治
理事	岩本宗孝
監事	青野達司
監事	中本順夫

（JVC）時代を含めるとカンボジア活動歴 20 年の大ベテランを突如失う悲しい事態となった。「日本人会初代会長」、「自動車整備の父」など、その功績は数多く、また人脈も広がった。東京事務所では、JVC と共催で、7 月 29 日に JICA 地球ひろばにて、「馬清さんを偲ぶ会」を執り行なった所、故人と縁のある約 300 人の甲問客が集まった。

東京事務所

区分	在籍数	3 月末現在数
常勤理事	4 名	4 名
職員（有給）	8 名	6 名
インターン	有給 3、無給 1	有給 3 名
定期ボランティア	2 名	2 名

ブノンペン事務所

区分	在籍数	3 月末現在数
日本人（有給）	4 名	3 名
ローカル（有給）	10 名	8 名
契約社員（有給）	2 名	2 名
インターン（無給）	1 名	0 名

ボランティア

2008 年度は、年間で延べ 1,152 名が国内でのボランティア活動に携わった。前年度の実績は 1,155 名であり、横ばいであった。

また、活動時の事故や怪我に対して会が補償をする為のボランティア保険に 82 名（更新済）加入した。

7. 受賞

代表の小山内美江子が第 20 回毎日国際交流賞を受賞した。2008 年 8 月 21 日の毎日新聞朝刊にて関連記事が報じられ、以下の通り受賞理由が掲載された。

『脚本家として知られる小山内美江子さんは、カンボジアで 200 棟を超える学校校舎の建設に尽力している。金銭的支援にとどまらず、日本の大学生ら若者に現地で建設作業を体験させるなどの人材交流を進め、音楽や美術などの情操教育にも力を入れる。また、国際協力を支える若い人材を積極的に育成している。』

2008 年 9 月 27 日に、毎日新聞大阪本社にて表彰式と記念シンポジウムが開かれ、『共に生きる』と題して受賞記念講演が行われた。講演内容は、毎日国際交流事務局がまとめた冊子（非売品）に掲載された。